

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

興味のある日本語学を、充実したカリキュラムで学べることに魅力を感じ、志望校に決めました。

オープンキャンパスに参加した時に感じた学校の雰囲気がとても良く、アクセスの良い場所にあり、無理なく通えることも決め手になりました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

正直、何からしたらいいかわからず、定期テストの勉強しかしていませんでした。学校でほとんど毎日、英単語や古文単語の小テストがあったので、その範囲だけは完璧に覚えていました。一般入試で使うつもりだった日本史は、後で余裕がなくなりましたので、新しく習ったところは授業時間内に身につけていました。

〔夏休み〕

毎日現代文、古文、英語の長文を一題ずつ解いて、持っている参考書や単語帳を手当たり次第に覚えていました。苦手意識のある英語は、文法をさっと見て、イディオムは後回しにしてしまったので、参考書は一冊を何回もして、極めることが大切だと思います。英語の穴埋め問題は特殊なので、慣れるために夏休み後半には過去問を解き始めました。わからないう単語がでてきたら、別のノートに書き出して覚えていました。

〔2学期～入試直前〕

過去問の正答率や2学期に入ってもあっと上からはなかったのですが、自分で解説をつけて、覚えるくらい何回も解き直しました。さらに、同志社女子のオープンキャンパス模試や入試対策のネット配信を活用することで、だんだん理解できるようになりました。国語は漢字や文学史など、間違えたら精神的にダメージがくる問題を間違えなないように勉強しました。

入試の1ヶ月くらい前に、カウントダウンのカレンダーを作ってそこに、次の日二の問題集を二冊だけある、という計画を毎日書いていました。1冊が達成されたら、それ以上は勉強せず見放して、焦りすぎないようにしていました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私の場合、家だと短時間で集中力が切れてしまい、おどにスマホなどの誘惑に負けていました。

そのため、長文は図書館の勉強スペースなどで解き、単語は電車やバスなどの移動の時に覚えるようにしました。Wi-Fiが繋がらないうちに行くと、自然とスマホを触る時間が減り、

時間を有効活用できるようにしました。家では外でできない音読をやるようにして、場所によって勉強法を変えることで、集中力が持続するように工夫しました。音読は、英語の模試が伸びなかった時にひたすら、音読解力がついたのがオススメです。古文も音読をやることで、短時間で解けるようになりました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

1人で思い詰め、四六時中勉強に縛られるのはお辛い、友だちや家族と過ごす時間を作って、時々見放さしたほうが、絶対に良いと思います。何回も受験から逃げたくなったけれど、合格した日はみんなが喜んでくれて、世界一幸せを感じました。

無理せよがまんがって下さい!!